

運行管理者（貨物）問題集 - 道路交通法

資格ブートキャンプ用の学習PDFです。対象区分：共通 + 貨物。正解と解説は各問題の末尾に掲載しています。収録数：100問。

Q1 (ID 271) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の基本確認では、最高速度を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q2 (ID 272) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の基本確認として、酒気帯び運転禁止について、標識で指定された最高速度は事業用自動車には適用されない。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の基本確認では、酒気帯び運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q3 (ID 274) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、車間距離について、標識で指定された最高速度は事業用自動車には適用されない。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の基本確認では、車間距離を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q4 (ID 275) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の基本確認として、交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻込みを確認する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の基本確認では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻込みを確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q5 (ID 277) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の基本確認では、駐停車を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q6 (ID 279) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の基本確認では、シートベルトを単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q7 (ID 280) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の基本確認として、緊急自動車への対応について、標識で指定された最高速度は事業用自動車には適用されない。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の基本確認では、緊急自動車への対応を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q8 (ID 282) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の記録管理として、酒気帯び運転禁止について、酒気帯びの疑いがあっても本人が大丈夫と言えれば乗務できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の記録管理では、酒気帯び運転禁止を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q9 (ID 283) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の記録管理として、過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の記録管理では、過労運転禁止を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q10 (ID 285) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の記録管理として、交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の記録管理では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q11 (ID 287) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の記録管理として、駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の記録管理では、駐停車を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q12 (ID 288) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の記録管理として、運転免許について、酒気帯びの疑いがあっても本人が大丈夫と言え乗務できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の記録管理では、運転免許を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q13 (ID 290) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の記録管理として、緊急自動車への対応について、酒気帯びの疑いがあっても本人が大丈夫と言え乗務できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の記録管理では、緊急自動車への対応を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q14 (ID 291) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の事故防止として、運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の事故防止では、最高速度を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q15 (ID 292) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、酒気帯び運転禁止について、荷物の転落防止は荷主だけの責任である。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の事故防止では、酒気帯び運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q16 (ID 293) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の事故防止として、過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の事故防止では、過労運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q17 (ID 295) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の事故防止では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q18 (ID 296) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の事故防止として、積載物の落下防止について、荷物の転落防止は荷主だけの責任である。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の事故防止では、積載物の落下防止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q19 (ID 298) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、運転免許について、荷物の転落防止は荷主だけの責任である。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の事故防止では、運転免許を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q20 (ID 300) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、緊急自動車への対応について、荷物の転落防止は荷主だけの責任である。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の事故防止では、緊急自動車への対応を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q21 (ID 301) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の監査対策として、運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の監査対策では、最高速度を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q22 (ID 303) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の監査対策として、過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の監査対策では、過労運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q23 (ID 304) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の監査対策として、車間距離について、標識で指定された最高速度は事業用自動車には適用されない。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の監査対策では、車間距離を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q24 (ID 306) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の監査対策として、積載物の落下防止について、標識で指定された最高速度は事業用自動車には適用されない。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の監査対策では、積載物の落下防止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q25 (ID 308) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の監査対策として、運転免許について、標識で指定された最高速度は事業用自動車には適用されない。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の監査対策では、運転免許を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q26 (ID 309) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の監査対策として、運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の監査対策では、シートベルトを単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q27 (ID 311) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の乗務前確認として、運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の乗務前確認では、最高速度を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q28 (ID 312) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の乗務前確認として、酒気帯び運転禁止について、酒気帯びの疑いがあったとしても本人が大丈夫とさえ乗務できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の乗務前確認では、酒気帯び運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q29 (ID 313) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の乗務前確認として、過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の乗務前確認では、過労運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q30 (ID 314) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の乗務前確認として、車間距離について、酒気帯びの疑いがあったとしても本人が大丈夫とさえ乗務できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の乗務前確認では、車間距離を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q31 (ID 316) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の乗務前確認として、積載物の落下防止について、酒気帯びの疑いがあったとしても本人が大丈夫とさえ乗務できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の乗務前確認では、積載物の落下防止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q32 (ID 317) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の乗務前確認として、駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の乗務前確認では、駐停車を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q33 (ID 319) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の乗務前確認として、運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の乗務前確認では、シートベルトを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q34 (ID 321) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の乗務後確認として、運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の乗務後確認では、最高速度を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q35 (ID 322) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の乗務後確認として、酒気帯び運転禁止について、荷物の転落防止は荷主だけの責任である。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の乗務後確認では、酒気帯び運転禁止を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q36 (ID 324) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の乗務後確認として、車間距離について、荷物の転落防止は荷主だけの責任である。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の乗務後確認では、車間距離を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q37 (ID 325) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の乗務後確認として、交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻込みを確認する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の乗務後確認では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻込みを確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q38 (ID 327) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の乗務後確認として、駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の乗務後確認では、駐停車を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q39 (ID 329) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の乗務後確認として、運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路交通法の乗務後確認では、シートベルトを単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q40 (ID 330) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の乗務後確認として、緊急自動車への対応について、荷物の転落防止は荷主だけの責任である。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路交通法の乗務後確認では、緊急自動車への対応を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q41 (ID 332) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(酒気帯び運転禁止)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

道路交通法の教育指導では、酒気帯び運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q42 (ID 333) [貨物] 四択

貨物の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(過労運転禁止)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

正解：D

解説：

道路交通法の教育指導では、過労運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q43 (ID 334) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車間距離)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の教育指導では、車間距離を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q44 (ID 335) [貨物] 四択

貨物の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(交差点の安全確認)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。

正解：D

解説：

道路交通法の教育指導では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q45 (ID 337) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(駐停車)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。

正解：D

解説：

道路交通法の教育指導では、駐停車を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q46 (ID 338) [貨物] 四択

貨物の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(運転免許)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路交通法の教育指導では、運転免許を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q47 (ID 340) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(緊急自動車への対応)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

道路交通法の教育指導では、緊急自動車への対応を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q48 (ID 342) [共通] 四択

共通の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(酒気帯び運転禁止)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

道路交通法の異常時対応では、酒気帯び運転禁止を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q49 (ID 343) [貨物] 四択

貨物の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(過労運転禁止)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

正解：D

解説：

道路交通法の異常時対応では、過労運転禁止を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q50 (ID 345) [共通] 四択

共通の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(交差点の安全確認)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。

正解：D

解説：

道路交通法の異常時対応では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q51 (ID 346) [貨物] 四択

貨物の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(積載物の落下防止)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の異常時対応では、積載物の落下防止を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q52 (ID 348) [貨物] 四択

貨物の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(運転免許)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路交通法の異常時対応では、運転免許を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q53 (ID 350) [共通] 四択

共通の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(緊急自動車への対応)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

道路交通法の異常時対応では、緊急自動車への対応を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q54 (ID 351) [貨物] 四択

貨物の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(最高速度)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。

正解：D

解説：

道路交通法の行政処分防止では、最高速度を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q55 (ID 353) [共通] 四択

共通の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(過労運転禁止)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

正解：D

解説：

道路交通法の行政処分防止では、過労運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q56 (ID 354) [貨物] 四択

貨物の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車間距離)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の行政処分防止では、車間距離を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q57 (ID 355) [共通] 四択

共通の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(交差点の安全確認)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。

正解：D

解説：

道路交通法の行政処分防止では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q58 (ID 356) [貨物] 四択

貨物の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(積載物の落下防止)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の行政処分防止では、積載物の落下防止を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q59 (ID 358) [共通] 四択

共通の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(運転免許)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路交通法の行政処分防止では、運転免許を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q60 (ID 359) [貨物] 四択

貨物の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(シートベルト)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。

正解：D

解説：

道路交通法の行政処分防止では、シートベルトを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q61 (ID 361) [共通] 四択

共通の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(最高速度)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。

正解：D

解説：

道路交通法の安全方針では、最高速度を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q62 (ID 363) [共通] 四択

共通の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(過労運転禁止)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

正解：D

解説：

道路交通法の安全方針では、過労運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q63 (ID 364) [貨物] 四択

貨物の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車間距離)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の安全方針では、車間距離を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q64 (ID 366) [共通] 四択

共通の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(積載物の落下防止)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の安全方針では、積載物の落下防止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q65 (ID 367) [貨物] 四択

貨物の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(駐停車)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。

正解：D

解説：

道路交通法の安全方針では、駐停車を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q66 (ID 369) [貨物] 四択

貨物の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(シートベルト)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。

正解：D

解説：

道路交通法の安全方針では、シートベルトを単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q67 (ID 371) [共通] 四択

共通の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(最高速度)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。

正解：D

解説：

道路交通法の新人教育では、最高速度を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q68 (ID 372) [貨物] 四択

貨物の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(酒気帯び運転禁止)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

道路交通法の新人教育では、酒気帯び運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q69 (ID 374) [共通] 四択

共通の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車間距離)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の新人教育では、車間距離を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q70 (ID 375) [貨物] 四択

貨物の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(交差点の安全確認)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。

正解：D

解説：

道路交通法の新人教育では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q71 (ID 376) [共通] 四択

共通の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(積載物の落下防止)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の新人教育では、積載物の落下防止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q72 (ID 377) [貨物] 四択

貨物の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(駐停車)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。

正解：D

解説：

道路交通法の新人教育では、駐停車を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q73 (ID 379) [共通] 四択

共通の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(シートベルト)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。

正解：D

解説：

道路交通法の新人教育では、シートベルトを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q74 (ID 380) [貨物] 四択

貨物の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(緊急自動車への対応)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

道路交通法の新人教育では、緊急自動車への対応を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q75 (ID 382) [共通] 四択

共通の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(酒気帯び運転禁止)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

道路交通法の繁忙期対応では、酒気帯び運転禁止を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q76 (ID 384) [共通] 四択

共通の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車間距離)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の繁忙期対応では、車間距離を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q77 (ID 385) [貨物] 四択

貨物の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(交差点の安全確認)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。

正解：D

解説：

道路交通法の繁忙期対応では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q78 (ID 387) [共通] 四択

共通の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(駐停車)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。

正解：D

解説：

道路交通法の繁忙期対応では、駐停車を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q79 (ID 388) [貨物] 四択

貨物の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(運転免許)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路交通法の繁忙期対応では、運転免許を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q80 (ID 390) [貨物] 四択

貨物の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(緊急自動車への対応)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

道路交通法の繁忙期対応では、緊急自動車への対応を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q81 (ID 392) [共通] 四択

共通の基本確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(酒気帯び運転禁止)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

道路交通法の基本確認では、酒気帯び運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。酒気帯び運転は厳しく禁止され、運行管理者は点呼で酒気帯びの有無を確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q82 (ID 393) [貨物] 四択

貨物の基本確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(過労運転禁止)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

正解：D

解説：

道路交通法の基本確認では、過労運転禁止を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q83 (ID 395) [共通] 四択

共通の基本確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(交差点の安全確認)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。

正解：D

解説：

道路交通法の基本確認では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q84 (ID 396) [貨物] 四択

貨物の基本確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(積載物の落下防止)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の基本確認では、積載物の落下防止を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q85 (ID 397) [共通] 四択

共通の基本確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(駐停車)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。

正解：D

解説：

道路交通法の基本確認では、駐停車を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q86 (ID 398) [貨物] 四択

貨物の基本確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(運転免許)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路交通法の基本確認では、運転免許を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q87 (ID 400) [共通] 四択

共通の基本確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(緊急自動車への対応)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

道路交通法の基本確認では、緊急自動車への対応を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。緊急自動車が接近した場合は、交通状況に応じて進路を譲り、安全に避譲する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q88 (ID 401) [貨物] 四択

貨物の記録管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。(最高速度)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。

正解：D

解説：

道路交通法の記録管理では、最高速度を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q89 (ID 403) [共通] 四択

共通の記録管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。(過労運転禁止)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

正解：D

解説：

道路交通法の記録管理では、過労運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q90 (ID 405) [共通] 四択

共通の記録管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。(交差点の安全確認)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。

正解：D

解説：

道路交通法の記録管理では、交差点の安全確認を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。交差点では信号、標識、歩行者、自転車、右左折時の巻き込みを確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q91 (ID 406) [貨物] 四択

貨物の記録管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。(積載物の落下防止)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の記録管理では、積載物の落下防止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q92 (ID 408) [共通] 四択

共通の記録管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。(運転免許)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路交通法の記録管理では、運転免許を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q93 (ID 409) [貨物] 四択

貨物の記録管理に関する記述として、最も適切なものはどれか。(シートベルト)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。

正解：D

解説：

道路交通法の記録管理では、シートベルトを単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q94 (ID 411) [貨物] 四択

貨物の事故防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(最高速度)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。

正解：D

解説：

道路交通法の事故防止では、最高速度を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は道路標識等で指定された最高速度を守り、状況に応じて安全な速度に調整する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q95 (ID 413) [共通] 四択

共通の事故防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(過労運転禁止)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。

正解：D

解説：

道路交通法の事故防止では、過労運転禁止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。過労、病気、薬の影響などで安全運転できないおそれがある場合は運転してはならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q96 (ID 414) [貨物] 四択

貨物の事故防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車間距離)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の事故防止では、車間距離を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。前車が急停止しても追突を避けられるよう、速度や路面状況に応じた車間距離を保つ。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q97 (ID 416) [共通] 四択

共通の事故防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(積載物の落下防止)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路交通法の事故防止では、積載物の落下防止を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。積載物は走行中に転落・飛散しないよう確実に積み付け、必要な固縛を行う。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q98 (ID 417) [貨物] 四択

貨物の事故防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(駐停車)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。

正解：D

解説：

道路交通法の事故防止では、駐停車を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。駐停車禁止場所では原則として駐停車できず、乗降・荷扱い時も安全確保が必要である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q99 (ID 418) [共通] 四択

共通の事故防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(運転免許)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路交通法の事故防止では、運転免許を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者は運転する車両の種類に応じた有効な運転免許を受けていなければならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q100 (ID 419) [貨物] 四択

貨物の事故防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(シートベルト)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。

正解：D

解説：

道路交通法の事故防止では、シートベルトを単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者と乗員は、法令に従いシートベルトを正しく着用する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。